

会派理念 市民の声を聴き、未来に責任ある政治を

会派長就任にあたって

◎会派長に就任しました。意気込みを聞かせて下さい。

令和という新しい時代が始まると同時に、会派長に就任させていただきました草地博昭です。会派でも、議会でも最年少であり、二期目の私を会派長に認めてくださった会派のメンバーからも、そして議員25人からも、そしてなにより市民の皆様からも、「信頼される政治」を率先して行つていかなくてはいけないと強く感じています。

特に若者たち、子どもたちの未来に希望が持てる磐田市していくことが最優先に取り組むべきことだと思っています。

◎磐田市議会における志政会の役割をどう考えていますか。

私たち志政会は、理念を「市民の声を聴き、未来に責任ある政治を」と掲げています。「市民の声を聴く」、多様な背景を抱えた市民の声、とりわけそれが少数であったとしても、その声に向き合うことが、新しい時代の政治には必要不可欠だと考えています。その点、私たち12人は、年代も、経験も、仕事も、そして住んでいる地域も性別も様々であり、会派内での議論も毎回時間をかけて行っています。私たちの会派の中にある多様性と、さらに市民の皆様の声を取り入れながら、バランスの取れた決断と議論をまとめていくことが求められていると感じています。

◎志政会はいま、どんなことに力をいれていますか。

「未来に責任ある政治を」という理念にあるように、「未来」を意識しています。しかしその出発点は、常に「今、この瞬間」です。今、困難に苦しむ方の声をききその障害を改善しながら、安心して生活できるようにしていくこと、そして「未来」に目線を向け、10年後、20年後も、安心した生活が送れるように、責任を果たせる政治を意識して議論を積み重ねています。例えば、中心市街地の活性化や産業振興も取り組みますし、農地や農業の今後の在り方も取り組んでいますが、空き家、空き地への対策、そして未来を担う子どもたち若者たちの支援の中でも、とくに不登校や、ひきこもり、発達支援や障害や虐待への対応、住民の安心安全の最も話題になる道路交通や、高齢者福祉政策、防災対策など、幅広い政策を提案すべく研修を重ねています。



◎市民の皆さんへ、メッセージを。

今、この国は人口減少社会と、少子高齢化社会という転換期を迎えています。

私たちの住む磐田市でも、これらの課題をどのように乗り越えていくのか、令和の時代を生きていく、私たち世代の知恵が試されようとしています。また、それらの課題を解決していくと同時に、私たちは市民の皆様と未来に向けての明るいビジョンを描き・共有し、その方向に向けて希望の持てる磐田市を作っていく使命があると考えます。

私たち志政会は、的確に情報を伝え、共に考え・動いてくださる市民とともに、未来の磐田市を一歩一歩構築していきたいと考えています。

「市民の声を聴き、未来に責任ある政治を」の理念のもと、皆さんそして次世代の市民の誇りと当たり前の幸せの実現に向け、会派一丸となって取り組んでまいります。今後とも志政会へのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

“特集”人口減少と少子高齢化を考える ①

私たちは、人口から磐田の未来を予測し、その対応策について研究を重ねていきます。

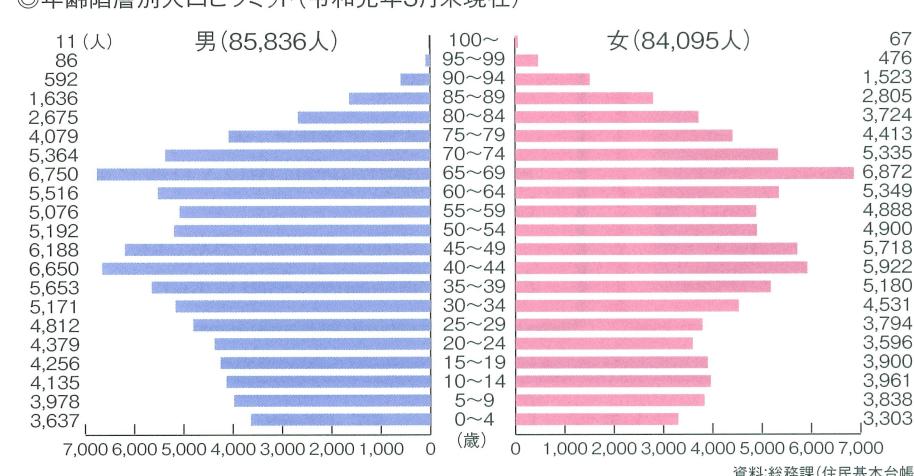
これまでの日本の都市の姿として、戦後数十年、都市はずっと経済成長、人口増加、地価の上昇という三条件の揃った右肩上がりの状況で成長してきました。しかし今後、磐田市でも人口は確実に減少し少子高齢化の影響がでてくることも予想されています。

人口減少の影響は、経済規模の縮小、地価の下落、空き家・空きビルの増加、税収減と財政悪化など、気が滅入るような話ばかりです。しかし、人口減少は、出生率の大幅な上昇や移民政策の大転換が起きない限り、確実にやって

くる未来です。人口減少を見て見ぬふりしてやり過ごすことも可能ですが、その分、必要な対応が遅れていき、状況を悪化させることになります。

そこで私たちは、現在の磐田市の人口の推移、少子高齢化の現状を踏まえて、将来の市の姿を考える一助となればと考え特集を組みました。今回は、問題提起として現在の磐田市の年齢階層別人口と今後の推移予想を掲載させていただきます。ぜひ皆様のご意見をお聞かせください。

◎年齢階層別人口ピラミッド(令和元年3月末現在)



◎年齢別人口推移予想(2013年)

